

べし
次に焙燥を炭火にかけて温め、胡麻を入れて、木杓子などでかきまわして炒るべし、それを摺盆に入れよりくねばり氣いづるほどにするべし、それよく馬尾師の底の上のせて、木杓子にて、下に皿を置き其上におつるやうにすべし。次に味噌を摺鉢に入れて、摺り、馬尾師の裏のせて漉し、鍋に入れて胡麻の摺りたるも入れ次に砂糖、水を入れて、木杓子にてませ合せ、火にかけ煉りはじめ、次に味噌も入れ、煮つまりてどろろとなるをなほ煮込みよく煉るべし
右煉れたる胡麻味噌に大根を入れて和へるなり

女學校に於ける家事科に就て

京都 河口 愛子

女子高等師範の親友よりもらひまして御會御發行の婦人と子供を今年の一月より拜見いたして居ります。さすが誠に結構な雑誌で私はいつも着するのが待遠い位であります。此度は四五と二ヶ月分同時にもらひまして早速拜見いたしました中に將來の家事教科と申す題にて高等女學校の家政科を始め裁縫科并に料理法などの教授の方法につきて種々かいてありましたので私も大に感じました。それで其の雑誌に書きならべてありました小言について思ひ出しましたのは私が修業いたしました學校の事でございます。そこで此學校の私等の時代の有様と今私の教鞭をとつて居る女子手藝學校の有様を少しお話いたしたいと存じます。若し萬一少しでも皆さんの御參考にもなりましたら此上もない幸と存じます。勿論時代後れの上淺學無經驗の私ですか

ら左様御承知をくださいまして御推讀の程をお願ひ致して置きます

まづ私の女學生時代の九州地方の女子教育の有様を少々お話いたしますが最早二十年前の事でありますが此當時の九州地方は、まだ女子の學問は少しも進んで居らないどころか、ひどいことには相當の身分の方が女が學問を爲せば、なま意氣になりて親の意見も兄弟の言ふことも耳にせず嫁入さすれば、主人をお尻に敷いて舅姑小姑などとは三日も同居はできぬなどと證據もないこと言ふて女子は高等小學校さへ卒業さする親さんは稀で郡部などは一郡に一人もない位でありました私は腹が立てたまりませんでした、けれども私は幸に父母のお蔭で四十人の男子の中に一人まじりて高等小學も卒業いたしました此年迄は近郡四郡中に女子は一人も卒業はありませんでした今と比べて見ますれば實に大違ひであります、處で近隣から私の父母を馬鹿とか目くらとか、ものずきとか

悪口言ふて實にさかなれないやうでした、けれども元より私の父母は意志が堅いので人のかげごとくには少しも頓着いたしません、ただ私にいつもの昔の女大學のことを、さかせてくれて居りました私も勿論三度お飯を一度位いはたべなくても私も勿論三度お飯を一度位いはたべなくても學問や技藝が習ひたいので小學卒業後またまた願つて家から八里も離れて在る熊本市の濟々鬘附屬女子學校に入學させてもらひました、すると近隣の人々は、ますます悪口を申すけれども父母も私も笑つて居りまして、とうとう三年目に卒業いたしましたして間もなく十人家内の河口家に嫁しまして最早十七ヶ年になりましたが今に姑小姑と同じ居いたしてあります此十人と申すのは祖母、舅、姑、主人、義弟一人、義妹三人、下女一人、下男一人でありました其後私も五人の子女を産みました姑も亦一人の男子を産れまして一所に居りますので他所の人は母の子供か私の子供かわからぬ位でありました又永い年月の間には祖母も舅も

主人も歸らぬ旅に逝かれまして今は姑と義弟二人
 義妹二人義子一人實子男二人女一人と合計十人家
 内同居いたしてあります弟妹子女の八人は昨今學
 問修業中でありますので私も此姑を安心させま
 して八人の弟妹子女を、それぞれ自活の道につけ
 るまでは、と一しても死なねぬと、一生懸命にき
 ばつて居ります、あーとんだ、よこみちにはいり
 まして誠にすみませんでした
 前にお話いたしたいと申ました學校は此熊本市の
 濟々霽附屬女子學校であります此學校は今尚綱
 高等女學校と改正されてあります此濟々霽は今
 熊本縣立中學校の以前であります、まだ此當時は
 高等女學校の公立はありませんでした高等女學校
 程度の私立女學校は此附屬の女子學校だけでした
 學年は四ヶ年程度で高等小學二年修了が一年級に
 入學できますので今の高等女學校と同じでありま
 した學科目も同數位で學科の程度は今よりかへつ
 て高い位でした英語なども馬鹿に進んで居りま

した生徒数は學籍百三十人位でした市内のお方
 が多いので寄宿舎生は僅か二十六人でした此寄宿
 舎生は肥後の國十五郡中より集つた者でございま
 した校長は矢張今の校長で内藤儀十郎と申あげま
 す白髪のお老先生で例のハイカラ的は大の禁物
 で女は女らしくて意志が堅くて質素儉約が大の
 好物で御ざいました其の上前に申しました
 通り地方一般に女子教育がひらけて居りませす一
 般の人々がただ女學校の悪口を言ふくと、ねら
 んで居りましたので校長は勿論他の諸先生も例の
 肥後氣質の上に嚴重で嚴格で生徒はまるで、くく
 られて居るやうな氣持でした然し生徒は大に元氣
 でした其嚴重なことを一寸申て見ますれば通學生
 は別にして寄宿生は舎監の先生と同行でなければ
 昇校の外は一寸も外出は出来ませんでした又親
 兄弟から來た手紙でも先生の目前で披て見るやう
 に致して居りました尤手紙は一應先生の手に渡
 りてからでなければ生徒は貰はれません此他のこ

とは御推しを願つて置きます

學科は裁縫は勿論家事科の如き科は皆實踐的に教へてもらひました、そこで通學生の方々でも家に歸れば早速お母さんの手助けが出来ると言つて親さんは皆喜こんで居られました私は遠方ですから寄宿舎にお世話になつて居りましたが寄宿舎は勿論出来る限り實踐致して居りました、これから寄宿舎の有様をお話致します

寄宿舎は校外で學校より二三町離れし故佐々友房氏の留守宅で舎監の先生は國友、櫻田兩先生と佐々氏の御夫人とのお三人でありました然し舎監専務ではありませんでした誠に嚴格な御方々で何となうこはくてたまらないやうでした然しなか／＼やさしく親切深い御方々で吾々寄宿生二十六人は我が子のやうに愛して戴いて居りました又病氣の時などは親兄弟も及ばぬ位にして戴きました、そこで生徒も親のやうに思ひまして何事も先生には打わけて居りました又時としては親にも言

ひ兼ねるやうなことで先生には御相談申上ぐる位でした、これは校長初め他の先生方も皆此様にありましたそこで其先生方の御恩は今に忘れませぬのみか今の現金主義の先生にくらべて見ますれば益々尊敬の心が深くなつてまいります

此寄宿舎では舎生の中ト級生の年長者より毎月交る／＼一名づつ生長をたてまして會計其他の取締りをさせて其責任を負はしむるようになつた(舎監の指圖を受け)致してありましたので生長になりました時は丁度新家持のやうな氣持で随分やせる位氣骨が折れまして其任が無事に済ますとやれ／＼と大息ついて安心致す位でした、ところで舎監の先生と生長と立會致して其月の豫算をたてて其全費用の合計を舎生の二十六人に割當てました月初め一日に其金額を生長に納めて置くことになつて居りました、そこで生長は其月の一日から金銭出入の帳簿取扱ひや(家計簿記を應用)ら寄宿舎日誌やら其他の取締りなど丁度主人のない主婦のやう

でなか〜いそがしくおりました

借其一ヶ月の豫算はかぼろげながら、ちとお話致しませう。尤普通一家の經濟は收入に應じて支出を定むるを原則と致しますれど此寄宿舎は學校のことです。國家の財政の如く支出を定めて然る後に其金額を徴收致します。然しながら十分出來得る限り節約して豫算をたてることにしてあります。

左の通り

豫算案(明治二十三年度ノ一ヶ月分)

賭 費	米、粟 代	一八七二 <small>圓</small>
	惣 菜	九、八〇 <small>(魚肉其他豆腐)</small>
	薪、炭、油代	五、二〇 <small>(野菜 砂糖類)</small>
	味噌醬油	四、五〇
	舍 費	一、三〇
	器 具 費	一、五六
	親睦會費	一、〇四 <small>(四回分)</small>

合計金四拾貳圓拾貳錢

一人分 一、六二一
右の通り一人分一圓六拾貳錢を生長に納めます。此外に一人分

月 謝	二五 <small>圓</small>
學 用 費	三〇
雜費小遣費	三三
合計金	八八

依て一ヶ月の學資總て貳圓五拾錢にて十分でした。勿論物價も二倍位に騰貴致して居ります。れど今日の女學生の學資と比べますれば實にお話になりませぬ。此様に致しまして生長は月末に一ヶ月間の出入を計算致し舎監の檢閲を受けて翌月の生長に惣ての會計を引渡します。若し月末に豫算より少々でも余りし時は豫備費に致して置きます。又足らぬ時には豫備費より辨償致すことになつて居りました。又臨時の支出は臨時に徴收致すことになつて居りました。

賭方及び掃除などは日々三人づつ當番になつて居りました賭につきましては其月の生長が一週間分づつ献立をなして合監の檢閲を受け炊事場に掲示して置きまして當番の者は毎日其通りに賭を致します其献立の一例を左に掲げてお目にかけませう

春 期 一週間の献立

朝 粟飯 味噌汁(葱ノ目豆腐ト) 香の物(若菜ノ朝漬)

日 曜 晝 同 澤庵漬と梅干

晚 同 煮附(魚肉ト里芋ト) 香の物(澤庵)

月 曜 朝 同 味噌汁(干切大根ノ一分ギリ) 香の物(朝漬)
晝 米飯 味噌漬大根と胡麻鹽 香の物(澤庵)
晚 粟飯 したし物(青菜) 香の物(澤庵)

火 曜 朝 同 味噌汁(フゲン菜ノキザミ) 香の物(朝漬)
晝 米飯 梅干と澤庵 香の物(澤庵)
晚 粟飯 清し汁(鱈魚ノ出汁ニ平々豆腐) 香の物(澤庵)

水 曜 朝 同 味噌汁 香の物(朝漬)
晝 米飯 味噌大根と朝漬 香の物(澤庵)
晚 粟飯 焼いわし 香の物(澤庵)

朝 同 味噌汁(卯の花ト油揚豆腐) 香の物(朝漬)

木 曜 晝 米飯 胡麻鹽と澤庵

晚 粟飯 煮附(里芋、こんじ、焼豆腐) 香の物(朝漬)

朝 同 味噌汁 香の物(澤庵)

金 曜 晝 米飯 梅干と味噌漬大根

晚 粟飯 漬し汁(竹輪ノ小口切ト葱ノ五分切ト) 香の物(朝漬)

土 曜 晝 米飯 澤庵と胡麻鹽 香の物(朝漬)
朝 粟飯 味噌汁(揚ゲ豆腐ト) 香の物(朝漬)

晚 粟飯 わへ物(ゆで大根ノ白アヘ) 香の物(澤庵)

そこで當番にあたりました日は三人とも朝暗いうちから起きまして私は年長でしたから、いつもはだして働いて居りました二十六人分のお飯を炊くのですから朝は五六升晩は三升斗りも炊きます、それで當番の三人は四時か四時半頃には必ず起きまして一人は顔を洗つて釜に水を入れ火を焚きつけて竈の前で冬などは暗いところで鏡も見ずに手さぐりして髪を結びます、すると湯が沸くまでには結構結んでしまします一人は其間に顔を洗ひ

米を洗つてお釜に入れます一人は顔を洗つて味噌を摺りて汁を作りませす、それから二人は髪を結びませす初め火を焚きつけた者が其間に飯と汁をでかしますませすれば大抵時計は六時を報じますので當番の手すきの者から柏子木を打ますと皆同時に起きませして床をあげ顔を洗ひ髪を結びませすそこで舍監の先生に挨拶を述べに揃つて参りませす其間に當番の者一人は膳をならべ飯をよそひ一人は汁をよそひて柏子木を打ますと皆集りて食事を致しませす二人の當番はお盆で給仕を致しませす残り一人は部屋の掃除を濟し辯當をつめてならべて置きませすそこで皆々は食事がすめば直に用意の學用品と辯當を携へませして舍監の先生と共に學校に参りませす當番の者は三人にて大急ぎに食事をすませ洗ひませすを終りませして急いで學校に参りませす午後も亦授業がすめば皆さんより早く急いで歸りませして夕食のお飯やおまわりをこしらへ洋燈の掃除をいたします晩飯は五時にきまつて居りませしたで五時ま

でに用意をなして又朝の如く給仕をして食事をすませし、あとをかたつけませして洋燈に火をともしませす八時から十時までが復習時間でありませす十時がなつたら舍監の先生に一人く挨拶致しませして寢床につきませす當番は戸締りをなし火をけして寢床につきませすこれで其日の當番の役は濟みませした翌日から七日間はお客の様です又漬物(澤庵)をなす時期には臨時其費用を集めませして大根や鹽など買揃へませして舍監の先生に習つて漬けます冬の寒ひ日に裾をまくつて白川に膝まで入りて漬物桶など洗ひしことを思ひ出しますれば今の女學生方は氣樂なものと存じます然し私は其氣樂には感服致しませせん女學校を卒業する前には必しも家事のことを出來得る限り實踐してもらひたいと希望致しませす私等は此様な教育を受けませしたので學藝は勿論お飯を炊く事から洗濯すること家事經濟のことまでもすべて學校で習ひませした今とは大分相違がありませす勿論生徒も少なひのでそれほどよく行き届

いたものかもしれません

これから今私の教鞭をとつて居る女學校のことを少しお話しいたしませう

前に申通り教育を受けて来た私ですから今は今の風潮に多少は従ひますも大體は前に受けた教育のしかたにして學科は學校で教へたことが皆家庭で實行してそれ／＼結構間に合ふやうに教へたい

と云ふことが私の第一の希望であります

私は五年前に此京都に参りまして其年から昨年の三月までは市内の女子手藝學校に勤務致して居り

ました昨年四月に是非ともと招聘されました京都

市より二十四五町東北に離る松ヶ崎村に在る愛宕

郡第一高等小學校の附設女子手藝學校に参りました

此學校は昨年の四月に淺學未熟なる私に教室教

具の設備から教科書及び教材の撰定より教授細目

に至るまで皆一任されました大に心配致して居り

ましたが教員は小學校には十人余りも居られまし

たが手藝學校には校長より外は私一人でしたから

何の遠慮もなく私の理想通りに致しまして今に勤

續致して居りますすが其愉快さ何ともたとへやうは

ありません少々自宅で氣分がわるくても二十四五

町もある野道を歩きまして學校に参りますと何時

の間にかあしき氣分はなくなりまして生徒は昨年は

創立の際にて二十四五人でしたが今年は八十人余

りになりましたそこで只今は二人で教授致して居り

ます

學年は三ヶ年程度にして補習を一ヶ年置いてあり

ます入學者の資格は高等二年修業の者でなければ

入學出来ませんですから高等女學校と同じです只

定員がまきつて居りませんので撰拔試験がないば

かりであります

科目も一二年は高等女學校の科目數と同じであり

ます三年級は家事、裁縫、手藝、國語、算術、修

身の六科目で補習は修身、家事、裁縫、手藝、生

花、茶の湯の六科目を教授致します此中私の教科

は修身、家事、裁縫、手藝、生花、茶の湯の六科

目であります此私の教授のあらましをお話し致しませう

前以て一寸お断り申ておきたいことは市近くと申ましても兎角田舎はいなかでありますので土地の情况を斟酌して教授致しますので都會にはあてはまらぬこともあらうと存じますからどうぞ其へんは御推讀を願ひます

一、修身 一週に一時間

教科書は生徒には持たせません

私は一に道徳二に身体三に學藝と重きを置いております又一方に於ては進取的新思想を入れると共に他方に於ては亦務めて舊來の女徳を保つことに十分意を用ゐて教授致して居ります

すると生徒もだん／＼よくなつて参ります僅か一ケ年余でありますが昨年の四月頃と只今とは大差であります一寸言ふてみますれば昨年の頃は全体に生徒が輕卒で又冷淡でありましたが今年になりますと余程沈着になりました又一寸生

徒の一人が病氣でも致しますれば學校では親切に又熱心に看護をなすとか又家には度々見舞に行くとか又私か一寸病氣で一日も欠勤しやうものなら二十四五町もある所を暑かろうと寒かろうと少しもかもわす見舞にきてくれますやう誠に愛らしくなりまし私も大に楽しんでおります

一、家事 一週に三時間

家事も田舎のことですから斟酌致しまして教科書は持たせません講話的問答的に教授致して居ります 其順序及び大体は後開先生の増訂家事教科書と私の實驗して参りましたことに依りて致しまして要項のみ記筆帳に筆記させます又漬物とか料理法などは教科書の順序はかまいません

其時節に應じまして實物のある時を撰んで教授致します譬へば梅干の漬方は入梅の頃即ち梅の熟する頃に實物につき細かく教へます又茄子野菜もの調理法は丁度前月頃に教へるやうに致しまして極めて卑近のことから教へますので生徒

が家に居つて早速實地に復習することが出来るばかりでなく其晩のおまはり結構此料理で間に合ひます

又着物などは汚れた儘のを持ち來らせまして學校で解き方を教へて解かしめ洗濯用水の作り方及び洗濯の仕方を教へて洗濯させ綴さすべきものはつぎ方を教へて綴がしめ端縫ふべきものは端縫の仕方を教へて端縫はせ糊の作り方を教へて糊を作らしめ端縫ひし物は簇にて糊張の仕方を教へ又板張は板への張方を教へまして糊張が出来ましたら各寸法に依り縫はしめ仕上げをなさしめて始めて家に持ち歸らしめます此様に教へますれば次の目には最早生徒が獨りで出来る

又絹物などで湯のしを要するものは實際に湯のしの仕方を教へます

又女袴とか紅裏とかで褪色しましたものはそれそれ色染法を故へて染めさせ雛を申し仕立上

げをなさしめまして家に持ち歸らしめませ又大の古き袴を小の袴になすとか單衣のお古に裏を附けて綿入や袷になすとか羽織のお古を袴纏になすとか姉のお古着を妹の着物になすとか其他種々様々に廢物利用の方法をも教へますので田舎のこととて母親たちは猶更父親までも大いに喜んで居られるそうです或日出勤途中一人の生徒の母親に出會ひました處が其親さんが言はれるのに(前略)先生是迄は一寸色上げや、ゆのしや簇張などしやうものなら半日暇をつぶして態々京都の悉皆屋まで頼みに行つて三度位は必らず催促に行きましたおまけには高々とか金を取られて居りましたのに此頃は學校で何もかも故へてもらいますので誠に結構で娘は仕合せ者であります又一生身の寶でありますなどと云つてお禮を言はれたことがあります信實を以てすれば、やはり其功があらはれると思ひました

一、裁縫 一週に二十五時間(但し三年と補習のみ)

裁縫はなるべく其材料は古きものを持たせませす
新らしき品になりませすれば初めから其方法を教

へて生徒に裁たしめませすそこで縫方をよく覚え
ます時には裁方も積り方もよく覚えて居りませす

中には鈍い子供も居りませすれど十人の中九人は
左様に出来ませす誠に楽しいものでありませす

一、手藝 一週に二時間

手藝も實用品から教へませすたとへば編物なら巾
着、靴下、手袋、頭巾、涎掛などで造花なら花

簪、佛花、子供帽子の飾などで刺繡なら繻絆の
半衿、服紗などと教へて參りませす

一、生花、茶の湯 一週に一時間

生花、茶の湯などは決して深くは教へませんた
だ其道だけを教へまして如何なる場所に出會し

ても恥を受けぬだけにとどめておく積りです尤
私もそれ専門でありませんので余り深くは存じ

ません

5
まだ作法のことなどもありませすけれど余りながく
なりませすので先づこれ位にして止めておきませしや

女子と體育 寺田勇吉

我國の女子の體格は男子よりも遙に劣つてゐる、其劣
つてゐる差が西洋の男女の差よりも甚しい。それで一
番人の丈夫な廿歳頃から四十歳位迄の間の男女の死亡
率を比べると、男の百人に對して女の百廿人といふ率
をなしてゐる、此差の西洋の男女の差よりも甚しい。
西洋では此年齢で男女死亡率の差は百人に付て二三人
であるのに、我國では百人に就て廿人といふ多数を示
してゐる、其死亡原因は月經妊娠出産など女子に取つ
て危険な時代であるのも其一つであるが、其大部分は
からだが弱いからである。此不幸の差し響く處は決し
て些しでない、理想の家庭は爲に破れ、夫は後妻を迎
へねばならぬ、子供は繼母を戴かねばならぬ、家の裡
に波風が起つて悪童ができる、日本の女子の弱いのは
其生活法が宜しくなく、一年三百六十日家に許りひつ
込んでゐて運動する機會が甚だ乏しいからで、偶に外
出しても衣服履物等すべて身體の操縦に少からぬ不便
があるからである(教育時論)